

研究だより

1 2学期の研究について（山田校長先生より）

1学期は、聞く姿勢等の学習規律に重点をおいた。

2学期は、子どもたちが主体的に話し、交流できるようにしたい。また、子どもたちの発言の中身を充実させたい。

特定の子どもだけが発言して授業を進める、これを打破する。

子どもがわくわくする資料や考えてみたいと思う仕掛けを授業の中に仕組むことが大切。

2 第6回 研究授業より学んだこと

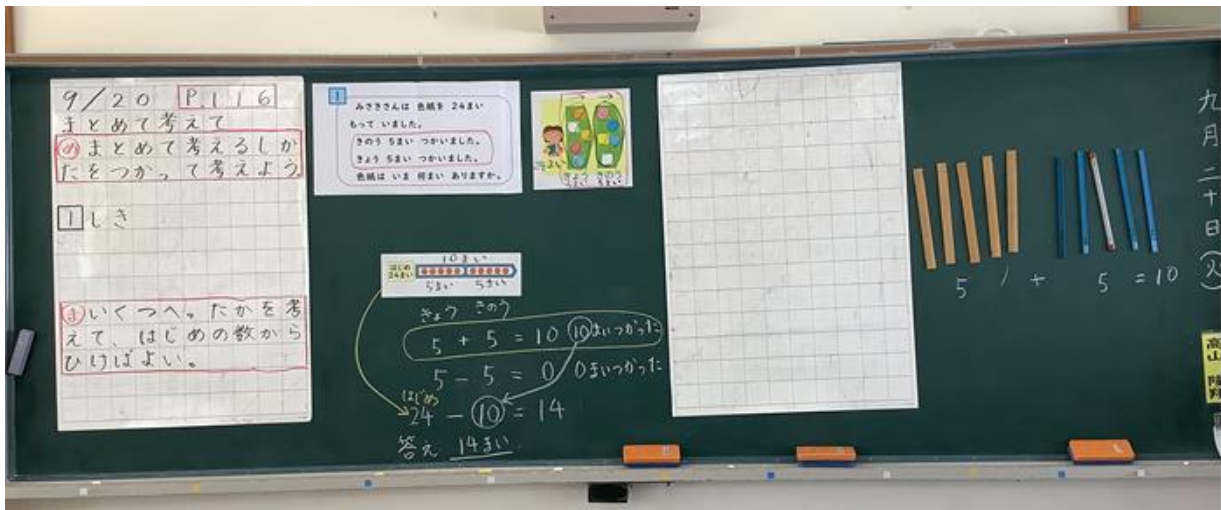
（令和4年9月20日（火）6校時 第2学年「まとめて考えよう（図を使って考えよう（2）」）

授業者 平田 千晶 教諭）

【協議会より】

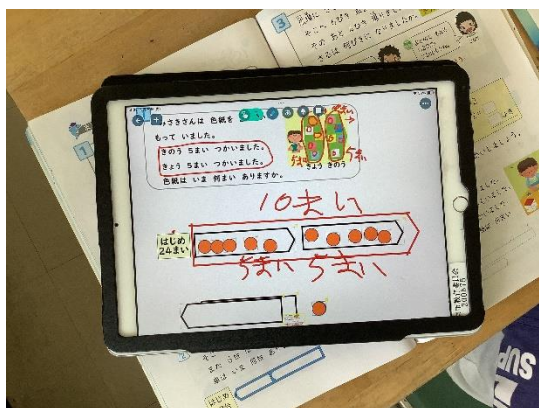
①子どもの問いを生かす手立てについて

- ・指示が短く、板書も分かりやすい。
- ・「へるへる問題」「ふえるふえる問題」などのネーミングが分かりやすくてよい。場の想定ができる。
- ・めあての「まとめて考える」があまり意識できていなかった。
めあてを振り返りながら授業を進めると意識できたのではないか。



②タブレットの活用・児童同士の意見交流について

- ・子どもたちはタブレットを使い慣れている。
- ・タブレットを使った予習がよかった。
- ・はじめの数（折り紙24枚）を具体物で表し、そこから引く動作ができれば、式と結び付けることができたのではないか。



【玉井指導主事先生より 指導助言】

①図をかいて説明し式につなげる指導について

- ・子どもにとって、具体的なもの（現実的な表現）から抽象的なもの（記号的な表現）に変換することは難しい。また、演算の決定も難しい。
- ・図、言葉、式を行ったり来たりしながら説明させるのがのぞましい。

例えば、「この図を言葉で説明すると？」（図→言葉）「この式は何を意味しているの？」（式→言葉）「今の説明を図で表すと？」（言葉→図）「今したことを言葉で説明すると？」（操作→言葉）ような発問で児童に説明させ、図・言葉・式を結び付けていく。また、友達の説明を自分の言葉に置き換えて説明させる、隣の友達に再現するなどの活動も有効である。

②問いを生かす手立てについて

- ・挑戦問題が子どもの意欲を引き出すものでとてもよかった。
- ・子どもたちの予習を見ると、「昨日と今日の折り紙を合わせてから引く。」という説明ができそうな子がいた。その子が図に書き込んだ矢印の意味を聞くと今日のねらいに迫ることができたかもしれない。

③タブレットの活用・意見交流について

- ・折り紙の24枚が視覚的に見えていると考えが深められた。
- ・子どもの誤答の中には、 $24 - 0 = 24$ や $24 + 10 = 34$ などもあった。それは正しい答えではないとすぐ分かる子もいる。「折り紙が減っていないからおかしい。」「増えているからおかしい。」というようになぜ違うのか説明できるとよい。

【山田校長先生より 指導助言】

- ・子どもが落ち着いて学習している。
- ・平田先生は、日頃から子どもたちにいろいろなことにチャレンジさせている。また、提示される教材がとても分かりやすい。
- ・広南小学校では、2学期は「自分で表現すること」に力を入れている。言葉で上手に伝えられなくても、タブレットや図で説明ができるようになってほしい。
- ・「分からないことが分からない」と言えることが授業をつくる上で大切である。

3 今後の予定

(令和4年9月29日(木) 6校時 ひまわり2組 第3学年「重さ」 授業者 矢野 由美 教諭)